

|         |   |
|---------|---|
| 科目名     | 生活行動からみたからだ-1【生活行動 息をする】  |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野 人体の構造と機能   |
| 履修対象    | 1年次前期   |
| 単位      | 1単位 30時間  |
| 担当講師    | 専任教師 2名   |
| 授業概要    | <p>からだにとって「息をする」ことは、酸素を体細胞に取り入れて、細胞内で酸化してエネルギーをつくり出すことと、その結果できた二酸化炭素を体外に排出することである。また、体内に取り込まれた酸素を細胞まで運ぶ役割を担うのが循環系であり、人体が活動する上で欠かすことのできないものである。</p> <p>呼吸・循環に関する諸器官の解剖をふまえ、人体での役割や意義を学ぶ。</p> |

## 授業計画

| 回  | 項目                                 | 内容                             | 方法       |
|----|------------------------------------|--------------------------------|----------|
| 1  | I. 生活行動とは                          | 生活行動とは                         | 講義       |
| 2  | II. 息をするとは<br>1. 呼吸器系<br>1) 呼吸器の構造 | 呼吸の意義<br>上気道の構造と機能             | 講義<br>GW |
| 3  |                                    | 下気道、肺と肺胞の構造と機能<br>胸膜・縦隔        |          |
| 4  | 2) 呼吸運動                            | 内呼吸と外呼吸<br>呼吸のメカニズム<br>呼吸器量    |          |
| 5  | 3) ガス交換とガスの運搬                      | ガスの交換とガスの運搬<br>酸塩基平衡           |          |
| 6  | 4) 呼吸運動の調節<br>5) 呼吸障害による症状         | 呼吸の調節                          |          |
| 7  | 6) 呼吸器系の病態生理                       | 換気障害など<br>(閉塞性換気障害、拘束性換気障害)    |          |
| 8  | 呼吸器まとめ                             |                                |          |
| 9  | 2. 循環器系<br>1) 循環器系の構成<br>2) 心臓の構造  | 循環の意義と呼吸との関連<br>心臓の構造・心臓の血管と神経 |          |
| 10 | 3) 心臓の拍出機能                         | 刺激伝導系と心電図<br>心臓の収縮             |          |
| 11 | 3) 心臓の拍出機能                         | 心周期・心音                         |          |
| 12 | 4) 末梢循環系の構造                        | 血管の構造<br>肺循環の血管<br>体循環の動脈と静脈   |          |
| 13 | 5) 血液の循環の調節                        | 血圧や血流量の調節                      |          |
| 14 | 5) 血液の循環の調節                        | 微小循環<br>循環器系の病態生理              |          |
| 15 | 6) リンパとリンパ管<br>7) 胎児循環<br>循環器まとめ   | リンパとリンパ管<br>胎児循環               |          |

発展科目: 病態生理学-1 専門分野 I、II

テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院  
看護形態機能学 生活行動からみるからだ(第4版) 菱沼典子 日本看護協会出版社

成績評価: 終講時試験

科目名 生活行動からみたからだー2【恒常性維持(血液ホルモン) 発生】  
 授業科目の区分 専門基礎分野 人体の構造と機能  
 履修対象 1年次前期  
 担当講師 非常勤講師  
 授業概要 人体の構造の最小単位である細胞について学ぶ。また、物質の流通に重要な働きを担う血液を中心に、体液の成分と働きを理解する。  
 内分泌腺・ホメオスタシスの種類と働きを学び、それらの相互作用を理解して恒常性(ホメオスタシス)の仕組みを学ぶ。

授業計画

| 回  | 項目                | 内容                  | 方法 |
|----|-------------------|---------------------|----|
| 1  | 1.生命の基本単位 細胞      | ①生命の最小単位細胞の構造と働き    | 講義 |
| 2  |                   | ②生体内の物質移動           |    |
| 3  |                   | ③代謝とエネルギー・組織        |    |
| 4  | 2.発生              | ④生殖細胞の形成            |    |
| 5  |                   | ⑤ヒトの発生と分化           |    |
| 6  | 3.内部環境と恒常性        | ⑥体液のホメオスタシス         |    |
| 7  |                   | ⑦腎臓による体液量・浸透圧の調節    |    |
| 8  |                   | ⑧血液の組成と機能           |    |
| 9  | 4.恒常性を維持する物質の流通-2 | ⑨血液の運搬と血液凝固・水素イオン濃度 |    |
| 10 |                   | ⑩生体の防衛機構            |    |
| 11 | 5.恒常性維持のための調節機構-1 | ⑪自律神経と内分泌系          |    |
| 12 |                   | ⑫内分泌腺の種類と作用機序       |    |
| 13 |                   | ⑬視床下部による調節と甲状腺      |    |
| 14 |                   | ⑭膵臓・副腎による血糖量の調節     |    |
| 15 |                   | ⑮神経とホルモンの連携とストレス    |    |

発展科目： 病態生理学全般、専門分野Ⅰ・Ⅱ

テキスト： 系統看護口座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院  
 看護形態機能学 生活行動からみるからだ(第4版) 菱沼典子 日本看護協会出版社

成績評価： 終講時テスト



科目名 生活行動からみたからだー4【食べる トイレに行く 眠る お風呂に入る】  
 授業科目の区分 専門基礎分野 人体の構造と機能  
 履修対象 1年次前期  
 単位 1単位 30時間  
 担当講師 専任教師 3名  
 授業概要 人間が生命を維持するために基本的に必要な、食べること、トイレに行くこと、眠ること、風呂に入るなどの生活行動を理解する。

## 授業計画

| 回  | 項目        | 内容             | 方法 |
|----|-----------|----------------|----|
| 1  | 1. 食べる    | 1) 食欲と食行動      | 講義 |
| 2  |           | 人はなぜ食べるのか      |    |
| 3  |           | 摂食・満腹中枢        |    |
| 4  |           | 2) 咀嚼・嚥下       |    |
| 5  |           | 口腔、食道の構造と機能    |    |
|    |           | 3) 消化・吸収       |    |
|    |           | 胃・小腸の構造と機能     |    |
|    |           | 肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能 |    |
|    |           | 栄養素と消化酵素       |    |
| 6  | 2. トイレに行く | 1) 排泄行動        | 講義 |
| 7  |           | 2) 排便          |    |
| 8  |           | 排便のメカニズム       |    |
| 9  |           | 大腸・直腸の構造と機能    |    |
| 10 |           | 排便の異常          |    |
|    |           | 3) 排尿          |    |
|    |           | 排尿のメカニズム       |    |
|    |           | 腎臓・膀胱の構造と機能    |    |
|    |           | 排尿の異常          |    |
|    |           | 4) 体液量の調整機構    |    |
|    | 尿の成分の調整   |                |    |
|    | 水分出納      |                |    |
|    | 酸塩基平衡     |                |    |
| 11 | 3. 眠る     | 1) 睡眠とは        | 講義 |
| 12 |           | 2) からだのリズム     |    |
|    |           | 3) 睡眠の生理       |    |
|    |           | 睡眠の種類とパターン     |    |
|    |           | 睡眠に影響する因子      |    |
|    |           | 不眠の影響          |    |
| 13 | 4. お風呂に入る | 1) 垢を落とす       | 講義 |
| 14 |           | 皮膚の構造と機能       |    |
| 15 |           | 毛髪構造と機能        |    |
|    |           | 2) 皮膚と付属物      |    |
|    | 3) 皮膚と粘膜  | 皮膚・粘膜の防御機構     |    |
|    | 4) 温まる    | 入浴が身体に及ぼす影響    |    |

発展科目： 病態生理学全般、専門分野Ⅰ・Ⅱ  
 テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院  
 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院  
 看護形態機能学 生活行動からみるからだ(第4版) 菱沼典子 日本看護協会出版社  
 成績評価： 終講時テスト  
 学習態度

科目名 臨床生化学  
 授業科目の区分 専門基礎分野  
 履修対象 1年次 後期  
 単位 1単位 30時間  
 担当講師 非常勤講師  
 授業概要

栄養学や代謝学などにつながる生体物質の代謝を理解する。また、様々な生体機能のなかで、正常を維持するためにどの物質が重要な役割を果たしているのか、正常から異常へと変化する際にどの経路が関連するのかを知り、実際の疾病がどのように生化学につながっているのかを理解する。

### 授業計画

| 回  | 項目                | 内容   | 方法   |
|----|-------------------|--|------|
| 1  | 1. 生化学を学ぶための基礎知識  | A 生化学とは, B 生体の化学の基礎知識<br>C 生命とは, D 細胞の構造と機能  | 講義   |
| 2  | 2. 代謝の基礎と酵素・補酵素   | A 代謝と生体のエネルギー, B 酵素の基礎知識<br>C 補因子, D ビタミン, E 酵素の反応速度,<br>F 酵素の阻害   | 講義   |
| 3  | 3. 糖質の構造と機能       | A 糖質とは, B 単糖の構造と機能,<br>C 二糖の構造と機能, D 多糖の構造と機能  | 講義   |
| 4  | 4. 糖質代謝           | A 糖質の消化と吸収, B グルコースの分解,<br>C グリコーゲン代謝, D ペントースリン酸経路,<br>E 糖新生, F ガラクトース, マンノース, フルクトースの分解, G 糖質代謝に関する遺伝性疾患 | 講義   |
| 5  |                   |  |      |
| 6  | 5. 脂質の構造と機能       | A 脂質とは, B 脂質の種類, C リポタンパク質   | 講義   |
| 7  | 6. 脂質代謝           | A 脂質の消化と吸収, B 脂肪酸の分解,<br>C 脂質の合成, D 脂質代謝に関する遺伝性疾患  | 講義   |
| 8  | 7. タンパク質の構造と機能    | A タンパク質とは, B アミノ酸,<br>C タンパク質の構造   | 講義   |
| 9  | 8. タンパク質代謝        | A タンパク質の消化と吸収, B アミノ酸の分解,<br>C 非必須アミノ酸の合成  | 講義   |
| 10 | 9. ポルフィリン代謝と異物代謝  | A ポルフィリン, B 生体異物代謝,<br>C 活性酸素とその除去反応   | 講義   |
| 11 | 小テスト              |  | 小テスト |
| 12 | 10. 遺伝子と核酸        | A 遺伝情報, B 遺伝学の基礎知識,<br>C 核酸の構造と機能, D 核酸の代謝   | 講義   |
| 13 | 11. 遺伝子の複製・修復・組換え | A DNAの複製, B DNAの修復, C DNAの組換え,<br>D DNA修復機構の異常による遺伝性疾患,<br>E 遺伝子多型   | 講義   |
| 14 | 12. 転写            | A 転写とは, B 転写の開始とRNA鎖の伸長,<br>C 転写の終結, D RNAのプロセッシング,<br>E 遺伝子の発現調節  | 講義   |
|    | 13. 翻訳と翻訳後修飾      | A 翻訳の概要, B 翻訳のメカニズム,<br>C タンパク質の折りたたみと輸送・修飾,<br>D 翻訳後修飾, E 細胞内輸送シグナル                                       | 講義   |
| 15 | 14. シグナル伝達        | A シグナル伝達の概要,<br>B 細胞内シグナル伝達の機序,<br>C 内分泌の生化学的基盤  | 講義   |
|    | 15. がん            | A がんの性質, B 細胞周期とがん, C がん遺伝子,<br>D がん抑制遺伝子, E 染色体転座, F がん薬物療法   | 講義   |

発展科目： 専門分野Ⅰ・Ⅱ  
 テキスト： 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院  
 成績評価： 小テスト  
 終講時試験

|         |          |
|---------|----------|
| 科目名     | 疾病の理論と原理 |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野   |
| 履修対象    | 1年次 後期   |
| 単位      | 1単位 30時間 |
| 担当講師    | 非常勤講師 3名 |

**授業概要** 人はさまざまな疾患に罹ります。疾患の種類は無数にありますが、すべての疾患を逐一詳しく勉強していくと際限がありません。しかし、無数にある疾患も、例えば、循環障害、炎症、腫瘍…など、基本的な大まかなグループに分けることができます。まず、大まかなグループについて一般的な事柄を理解してから、個々の疾患、個々の症例についてさらに深く掘り下げていきましょう。

病態学Ⅰ（病理学総論）の講義では、大まかな疾患のグループについて、病気の発生するメカニズムを理解し、そこから症状のあらわれる理由や、診断や治療の根拠についても理論的に説明できるようになることを目標とします。

#### 授業計画

| 回  | 項目             | 内容  | 方法 |
|----|----------------|---|----|
| 1  | 1. 病理学で学ぶこと    | 病理学とは・疾患の分類   | 講義 |
| 2  | 2. 細胞・組織の障害と修復 | 細胞の損傷と適応<br>組織の修復と創傷治癒  |    |
| 3  | 3. 遺伝について      | 染色体・DNA・遺伝子   | 講義 |
| 4  |                | 遺伝形式と主な疾患   |    |
| 5  |                | ゲノム医療   |    |
| 6  | 4. 循環障害        | 浮腫、充血とうっ血、出血、血栓症、塞栓症<br>虚血と梗塞、側副循環による障害、ショック<br>高血圧症、DIC<br>循環器系の主な疾患 | 講義 |
| 7  | 5. 炎症と免疫       | 炎症とその分類、免疫と免疫不全   | 講義 |
| 8  | 移植と再生医療        | アレルギーと自己免疫疾患  |    |
| 9  | 6. 感染症         | 移植と再生医療<br>感染と宿主の防御機構<br>おもな病原体と感染症<br>感染症の治療と予防                      |    |
|    | 7. 代謝障害        | 脂質代謝障害、蛋白質代謝障害、糖尿病  |    |
| 10 | 8. 先天異常と遺伝子異常  | 先天異常、遺伝子の異常と疾患<br>先天異常・遺伝子異常の診断と治療                                    | 講義 |
| 11 | 9. 腫瘍          | 腫瘍の定義と分類、腫瘍の広がりや影響  | 講義 |
| 12 | 10. 腫瘍各論       | 腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療<br>腫瘍の統計   |    |
| 13 |                | 血液・造血器系の疾患  | 講義 |
| 14 |                |   |    |
| 15 | 11. 病理診断       | 病理検査の概要、解剖  | 講義 |

**発展科目：** 病理総論では、解剖生理学や生化学で学習した知識をもとに、疾患を理解するための骨組みを作ります。その骨組みの上に、それぞれの系統別看護学の講義や臨床実習を通して疾患の具体的な知識を肉付けしていきましょう。

**テキスト等：** 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院  
 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院  
 講義プリント（適宜配布します）

**成績評価：** 終講時試験

科目名 病態生理学—1【呼吸機能障害・循環機能障害】  
 授業科目の区分 専門基礎分野  
 履修対象 1年次後期  
 単位 1単位 30時間  
 担当講師 非常勤講師 3名

授業概要 呼吸機能障害・循環機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎的知識を身につけることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。

#### 授業計画

| 回  | 項目                      | 内容  | 方法 |
|----|-------------------------|---|----|
| 1  | 1.呼吸器の看護を学ぶにあたって        |   | 講義 |
|    | 2.呼吸器の構造と機能             |   |    |
|    | 3.呼吸器症状と看護              | ①喀痰 ②血痰・咯血 ③咳嗽 ④胸痛 ⑤呼吸困難<br>⑥チアノーゼ ⑦ばち指 ⑧発熱 ⑨呼吸の異常<br>⑩声の異常 ⑪いびき ⑫意識障害  |    |
|    | 4.検査・治療・処置と看護           | 1) 呼吸機能障害のある対象が受ける検査と治療・処置<br>①喀痰検査 ②胸水検査 ③画像診断 ④内視鏡検査<br>⑤胸腔ドレナージ ⑥呼吸器外科の手術<br>2) 検査・治療・処置を受ける対象の看護                        |    |
|    | 5.疾患・病態生理の理解と疾患を持つ対象の看護 | 1) 疾患の理解<br>①感染症 ②間質性肺疾患 ③気道疾患<br>④呼吸不全 ⑤肺腫瘍 ⑥胸部外傷<br>2) 疾患を持つ患者の看護   |    |
| 15 | 1.循環器の看護を学ぶにあたって        |   | 講義 |
|    | 2.循環器の構造と機能             |   |    |
|    | 3.循環器症状と看護              | ①胸痛 ②動悸 ③呼吸困難 ④浮腫 ⑤チアノーゼ<br>⑥めまい・失神 ⑦四肢の疼痛 ⑧ショック  |    |
|    | 4.検査・治療・処置と看護           | 1) 循環機能障害のある対象が受ける検査と治療・処置<br>①心電図 ②胸部X線検査 ③心エコー法<br>④心臓カテーテル法 ⑤血行動態モニタリング<br>⑥内科的治療 ⑦外科的治療 ⑧補助循環装置<br>2) 検査・治療・処置を受ける対象の看護 |    |
|    | 5.疾患・病態生理の理解と疾患を持つ対象の看護 | 1) 疾患の理解<br>①虚血性心疾患 ②心不全 ③不整脈 ④弁膜症<br>⑤心膜炎 ⑥心筋疾患 ⑦肺性心 ⑧血圧異常<br>2) 疾患を持つ対象の看護  |    |

発展科目 専門分野Ⅰ・Ⅱ、臨地実習

テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 医学書院

成績評価 終講時試験  
 学習態度

|         |  |
|---------|--|
| 科目名     | 病態生理学－2【栄養代謝機能障害 排泄機能障害】   |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進   |
| 履修対象    | 1年次 後期   |
| 単位      | 1単位 30時間   |
| 担当講師    | 専任教師 3名  |
| 授業概要    | 栄養代謝機能障害・排泄機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎的知識を身に付けることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。 |

## 授業計画

| 回  | 項目                       | 内容  | 方法  |
|----|--------------------------|---|-----|
| 1  | 1. 栄養代謝機能障害              |   | 講義  |
| 2  | 1) 消化管機能障害の成り立ちと症状・看護    | ①嚥下困難 ②吐きけ・嘔吐 ③腹痛 ④吐血・下血<br>⑤腹部膨満 ⑥腹水 ⑦黄疸 ⑧意識障害(肝性脳症)   |     |
| 3  | 2) 検査・治療・処置と看護           | ①糞便検査 ②肝機能検査 ③腫瘍マーカー<br>④超音波検査 ⑤内視鏡検査 ⑥X線検査<br>⑦EIS ⑧EVL ⑨EMR ⑩ESD<br>⑪肝生検 ⑫RFA ⑬TAE ⑭TACE ⑮腹水穿刺                              | 講義  |
| 4  |                          |   |     |
| 5  | 3) 疾患・病態生理の理解            | (1)食物の移送障害、消化吸収障害を起こす疾患   | 講義  |
| 6  | と疾患を持つ対象の看護              | ①食道がん②胃がん③胃・十二指腸潰瘍④腸閉塞  |     |
| 7  |                          | (2)肝機能障害、膵臓機能障害を起こす疾患と症状  | 講義  |
| 8  |                          | ①肝炎 ②肝硬変症 ③門脈圧亢進症 ④肝不全  |     |
| 9  |                          | ⑤肝がん ⑥胆石症 ⑦胆管・胆嚢がん ⑧膵炎<br>⑨膵臓がん   |     |
| 10 |                          | (3)糖代謝障害  | 講義  |
|    |                          | ①糖尿病(低血糖・高血糖)<br>②代謝異常(肥満・るいそう・高脂血症)  |     |
| 11 | 2. 排泄機能障害                |   |     |
| 12 | 1) 排便機能障害の成り立ちと症状・看護     | ①下痢 ②便秘   | 講義  |
|    | 2) 疾患・病態生理の理解と疾患を持つ対象の看護 | (1)排便の調節障害を起こす疾患<br>①クローン病 ②潰瘍性大腸炎<br>③大腸癌(結腸癌・直腸癌)<br>④排便経路の変更(人工肛門)   |     |
| 13 | 3) 排尿機能障害の成り立ちと症状・検査・治療  | 腎・泌尿器系疾患の特徴<br>診察 ①病歴聴取②診察法:視診、触診<br>検査 ①採尿方法②24時間尿の取り方④X線検査:<br>KUB、IP、RP、UG⑤核医学診断法:Gaシンチ、骨シンチ<br>⑥膀胱鏡⑦尿流動体検査:ウロフロメトリ、シストメトリ | 講義  |
| 14 | 4) 感染                    | 1) 疾患の理解<br>①腎盂腎炎②膀胱炎③尿路結石  | 講義  |
|    | 尿失禁                      | ①腹圧性尿失禁②知覚性切迫性尿失禁③運動性切迫性尿失禁④反射性尿失禁⑤機能性尿失禁   | ビデオ |
| 15 | 5) 尿路変更                  | 膀胱癌<br>①症状②診断③治療:TUR-BT、膀胱全摘出術、化学療法、膀胱内注入療法   | 講義  |

発展科目: 専門分野Ⅰ・Ⅱ 臨地実習

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

成績評価: 終講時試験

2021.2改訂

科目名 病態生理学－3【脳神経・感覚機能障害】  
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進  
 履修対象 2年次前期  
 単位 1単位 30時間  
 担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 5名  
 授業概要 脳神経・感覚機能障害の主な症状と病態生理、検査・処置・治療に関する基礎知識を身につけることで、機能障害を持つ対象を理解し、アセスメント・看護活動について考える。

授業計画

| 回            | 項目   | 内容   | 方法 |
|--------------|--|--|----|
| 1<br>5<br>11 | I 脳機能障害<br>1. 脳神経の看護を学ぶにあたって<br>2. 脳神経の構造と機能<br>3. 脳神経障害の症状と病態生理<br>4. 検査・治療・処置と看護<br>5. 疾患と病態生理の理解と疾患を持つ対象の理解 | ①意識障害②高次脳機能障害(失語、失行と失認)<br>③運動機能障害④感覚機能障害<br>⑤自律性のある機能の障害<br>⑥頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア<br>⑦髄膜刺激症状⑧頭痛<br><br>1)脳神経障害のある対象が受ける検査と治療・処置<br>神経学的診察<br>①意識状態②運動系③反射系④感覚系<br>⑤脳神経系⑥高次脳機能<br>補助的検査法<br>①CT・MRI②脳血管撮影③脳脊髄液検査<br>治療・処置<br>①外科的治療法<br>開頭手術、穿頭術、脳室-腹腔短絡(シャント)術<br>②内科的治療法③放射線療法<br><br>1)疾患の理解<br>脳疾患<br>①脳血管障害②脳腫瘍③頭部外傷<br>④脳脊髄液の異常<br>末梢神経障害<br>①多発性ニューロパチー<br>(ギラン・バレー症候群)<br>筋疾患・神経筋接合部疾患<br>①筋ジストロフィー<br>②重症筋無力症<br>脱髄・変性疾患<br>①多発性硬化症②パーキンソン病<br>③筋萎縮性側索硬化症<br>脳・神経系の感染症<br>①脳炎②髄膜炎<br>2)疾患を持つ患者の看護 | 講義 |
| 12           | II 感覚機能障害<br>1 症状の理解   | 視力低下、難聴、めまい  |    |
| 13<br>14     | 2 視機能の障害の成り立ちと検査・治療  | 主な疾患と治療<br>屈折・調節の障害、白内障、緑内障<br>網膜剥離、加齢性黄斑円孔<br>眼底検査、視野検査、硝子体手術など   |    |
| 15           | 3 聴覚・平衡機能の障害の成り立ちと検査・治療  | 主な疾患と治療<br>中耳炎、突発性難聴、メニエール病、喉頭腫瘍<br>オーディオメーター、平衡機能検査   |    |

発展科目: 専門分野 I・II 臨地実習  
 テキスト: 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[7] 脳神経 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[13] 眼 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院  
 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院  
 成績評価: 終講時試験

科目名 病態生理学－4【生体防御機能障害 運動機能障害】  
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進  
 履修対象 1年次後期  
 単位 1単位 30時間  
 担当講師 非常勤講師 4名  
 授業概要 病因と病変の特徴を理解し、機能障害別の病態、治療、検査について学ぶ。

## 授業計画

| 回            | 項目   |   | 方法                   |
|--------------|--|---|----------------------|
| 1<br>～<br>8  | I 生体防衛機能障害<br>1. 生体防御機能とその障害の成り立ち<br>2. 検査と治療<br>3. 生体防御機能障害のアセスメント                                    | 1)アレルギー<br>2)自己免疫疾患<br>3)血液・造血器疾患<br>1)血液検査・自己免疫・抗原吸引誘発試験<br>2)貧血の治療<br>3)後天性免疫不全症候群治療<br>1)身体的側面・心理社会的側面   | 講義<br>講義<br>講義<br>講義 |
| 9<br>～<br>15 | II 運動機能障害<br>1. 運動器の看護を学ぶにあたって<br>2. 運動器の構造と機能<br>3. 症状と病態生理<br>4. 診断・検査と治療・処置<br>5. 疾患の理解<br>6. 患者の看護 | 1)運動器疾患患者の特徴と看護の役割<br>1)骨・関節・筋・靭帯<br>2)神経<br>1)形態・関節運動の異常、跛行<br>2)神経の障害<br>1)診察・診断・検査<br>問診・視診・触診(MMT、ROM)<br>2)治療・処置<br>1)外傷性疾患<br>骨折、脱臼、脊髄損傷<br>2)内因性疾患<br>先天性疾患<br>関節炎(関節リウマチ、変形性関節症)<br>腫瘍(骨腫瘍、肉腫)<br>骨代謝疾患(骨粗鬆症、骨軟化症)<br>脊椎疾患(変形性脊椎症、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、側彎症)<br>1)日常生活行動のアセスメント<br>2)運動機能障害のある患者の看護<br>事例を用いた病態の理解<br>経過に応じた問題と看護介入のポイント<br>(変形性関節症)(変形性脊椎症) | 講義<br>講義<br>講義       |

発展科目:専門分野Ⅰ・Ⅱ 臨地実習

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 医学書院

成績評価:終講時試験

|         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| 科目名     | 病態生理学－5【内部環境調節機能障害 性・生殖機能障害】       |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進               |
| 履修対象    | 2年次 前期                             |
| 単位      | 1単位 30時間                           |
| 担当講師    | 専任教師 2名 非常勤講師 2名                   |
| 授業概要    | 病因と病変の特徴を理解し、機能障害別の病態、治療、検査について学ぶ。 |
| 授業計画    |                                    |

| 回  | 項目                                    | 内容   | 方法                |
|----|---------------------------------------|--|-------------------|
| 1  | I 内部環境調節機能障害<br>1. 内分泌機能障害の成り立ちと検査・治療 | 1) 内分泌機能の概要<br>・ホルモンとは、作用のしくみ、分類<br>・おもな内分泌腺とホルモンについて  | 講義                |
| 2  |                                       | 2) 各ホルモンの働きと分泌異常について<br>・下垂体ホルモン<br>・甲状腺ホルモン<br>・副甲状腺ホルモン<br>・副腎皮質ホルモン<br>・副腎髄質ホルモン<br>・膵ホルモン                                    |                   |
| 3  | 2. 体液調節機能障害の成り立ちと検査・治療                | 1) ネフローゼ症候群<br>・病態、治療  |                   |
| 4  |                                       | 2) 腎不全<br>・腎臓の働きと腎不全に関する基礎知識<br>・慢性腎不全<br>・腎臓の検査と手術<br>・透析<br>・腎移植   |                   |
| 5  | 3. 体液調節機能障害の成り立ちと検査・治療                | 1) 患者の特徴と看護の役割<br>2) 生じやすい身体的・心理的・社会的問題<br>3) 経過と看護  |                   |
| 6  | II 性・生殖機能障害                           |  | 講義<br>グループ<br>ワーク |
| 7  | 1. 性ホルモンの障害の成り立ちと検査・治療                | 1) 加齢による症状: 更年期障害及び自律神経失調症<br>・性ホルモンの分泌の仕組みと更年期障害の関係と治療法<br>2) 代謝系疾患<br>・女性性腺機能障害<br>・性ホルモン分泌の変化と身体・心理・社会的状況との相互作用               |                   |
| 8  | 2. 生殖機能障害の成り立ちと検査・治療                  | 1) 炎症性疾患、器質性疾患<br>・生殖機能<br>・炎症性疾患、器質性疾患の原因・症状・治療<br>・月経周期と健康管理<br>2) 性器感染症<br>・性器感染症の原因・症状・治療・健康管理<br>3) 不妊症<br>・不妊症の定義<br>・女性不妊 |                   |
| 9  |                                       | ・性交障害<br>・不妊と健康管理  |                   |
| 10 | 3. 性・生殖器系腫瘍の成り立ちと検査・治療                | 病態及び治療<br>・子宮頸癌、子宮体癌<br>・卵巣癌   |                   |

| 回        | 項目              | 内容   | 方法 |
|----------|-----------------|--|----|
| 11       | 1. 男性生殖器の構造と機能  | 男性生殖器の解剖生理<br>精巣、精巣上体、精管、陰茎、陰嚢、前立腺   | 講義 |
| 12       | 2. 尿路の通過障害と機能障害 | 前立腺肥大<br>症状・治療<br>TUR-P、HoLEP<br>術中・術後の合併症<br>退院指導   |    |
| 13<br>14 | 3. 尿路・性器の腫瘍     | 前立腺がん<br>症状・治療<br>前立腺全摘出術(開腹、ロボット支援手術)<br>術中・術後の合併症<br>ホルモン療法<br>退院指導<br><br>精巣腫瘍                    |    |
| 15       | 4. 男性生殖器疾患      | 男性不妊症<br>検査・治療<br>造精機能障害:精索静脈瘤、停留精巣<br>精巣腫瘍<br>流行性耳下腺炎に伴う精巣炎<br>精路通過障害:精巣上体炎、逆行性射精<br>性機能障害:ED、遅漏、早漏 |    |

発展科目: 専門分野Ⅰ・Ⅱ 臨地実習

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院

成績評価: 終講時試験

科目名 感染症と微生物  
 授業科目の区分 専門基礎分野  
 履修対象 1年次前期  
 単位 1単位 30時間 (30時間の内20時間)  
 担当講師 非常勤講師 2名  
 授業概要

25-A

目に見えない微生物と共生しているヒト。地球の生命活動を根底から支えている微生物。微生物の世界をしっかりと把握できるように、多種多様な微生物の構造・機能を理解し、微生物の基礎知識を習得する。さらに感染症の実態、予防対策社会問題になっている新興・再興感染症や公衆衛生上の諸問題まで視野に入れて微生物を捉えることができるように、特にヒトのかかわりについて講義する。  
 各論では、各種微生物の特徴、病原性、検査方法、治療薬などについて学び、化学療法剤については種類、薬効について学ぶ。

授業計画

| 回  | 項目                    | 内容  | 方法 |
|----|-----------------------|---|----|
| 1  | 微生物学の基礎①              | 微生物とは？を起点に細菌の分類、形状、性質を知る。                                     | 講義 |
| 2  | 微生物学の基礎②              | 真菌、原虫、ウイルスの分類、形状、性質を知る。                                       | 講義 |
| 3  | 感染とその防御①              | 感染の成立から発症・治癒まで学ぶ。<br>生体の防御機構について学ぶ。<br>感染源・感染経路からみた感染症について学ぶ。 | 講義 |
| 4  | 感染とその防御②              | 滅菌と消毒について学ぶ。<br>感染症に関連した臨床検査と診断について学ぶ。                        | 講義 |
| 5  | 病原性微生物                | 病原微生物の種類と検査方法に関して学ぶ。  | 講義 |
| 6  | 細菌学各論①                | グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌、好気性菌、嫌気性菌等について種類、感染、検査について学ぶ。 | 講義 |
| 7  | 細菌学各論②                | グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌、好気性菌、嫌気性菌等について種類、感染、検査について学ぶ。 | 講義 |
| 8  | マイコプラズマ・リケッチア・真菌・原虫各論 | マイコプラズマ・リケッチア・クラミジアや種々の真菌、原虫のなかでも病原性のあるものについて学ぶ。              | 講義 |
| 9  | ウイルス学各論               | DNAウイルス、RNAウイルスの種類、感染形態、検査について学ぶ。                             | 講義 |
| 10 | 感染症の治療                | 化学療法剤に関して種類、薬効を学ぶ。<br>感染症の現状と対策に関して、監視体制を含め学ぶ。                | 講義 |

発展科目： 原疾患としての感染症(細菌・ウイルス)の理解と、院内感染を含む医療安全、感染対策の基礎知識となる。また、微生物検査のみならず、感染症に関連した臨床検査学についても学ぶ

テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学 医学書院

成績評価： 小テスト、終講時テスト

|         |   |
|---------|---|
| 科目名     | 感染症と微生物   |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野  |
| 履修対象    | 1年次前期   |
| 単位      | 1単位 30時間 (30時間の内10時間)   |
| 担当講師    | 非常勤講師 2名  |
| 授業概要    | <p>医療を取り巻く感染症の問題は、新興・再興感染症、国境なき感染症、人畜共通感染症など、グローバルになっている。医療従事者には微生物学的知識を持った上で、自分自身も患者も守ることが求められる。</p> <p>そこで、感染症の原因となる病原微生物について理解し、看護に必要な感染症の予防と治療に関する基礎知識、援助方法を習得する。</p> |

## 授業計画

| 回 | 項目                | 内容  | 方法                   |
|---|-------------------|---|----------------------|
| 1 | 感染症についての知識        | 1) 感染症の変遷と現状<br>2) 感染予防の意義<br>3) 感染症に関する法律<br>感染症法に基づく感染症の分類<br>4) 感染症を成立させる要素と成立過程<br>感染経路<br>感染成立の輪<br>感染予防の3原則 | 講義<br>*既習の講義内容を想起させる |
| 2 | 感染予防策             | 1) 手洗いの基本<br>2) 標準予防策<br>(スタンダードプリコーション)<br>3) 感染経路別予防策<br>4) 医療廃棄物の取り扱い<br>バイオハザードマーク<br>5) 洗浄・消毒・滅菌             | 講義<br>実物の提示          |
| 3 | 感染予防の看護技術         | 1) 手洗い<br>衛生的手洗い<br>2) スタンダードプリコーション<br>マスク、ガウンテクニック<br>グローブ  | 演習<br>*既習の講義内容を想起させる |
| 4 | 感染に対する生体防御機構      | 1) 免疫について<br>2) ワクチン<br>3) 化学療法<br>4) 適切な飲食・排泄・活動休息への援助   | 講義                   |
| 5 | 感染予防における看護師の責務と役割 | 感染症に関する事例検討<br>感染症発症時の対応  | 講義<br>グループディスカッション   |

発展科目： 生活を整える-1・2、臨床看護総論、診療の補助技術などの基礎看護学を始め、生体防御機構、公衆衛生学、医療安全など医療に携わるための礎となるものである。  
臨地実習全般

テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院  
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院

成績評価： 終講時試験  
学習態度、演習参加度

科目名 薬剤学  
 授業科目の区分 専門基礎分野  
 履修対象 1年次 後期  
 単位 1単位 30時間  
 担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 2名  
 授業概要 薬物治療の基礎的知識を学ぶ。  
 薬物療法の目的を理解し、安全な薬物の取り扱いができる。

## 授業計画

| 回                 | 項目                    | 内容   | 方法      |  |
|-------------------|-----------------------|--|---------|--|
| 1<br>}            | 1. 薬物による病気の治療         | ・薬物治療の歴史<br>・薬物治療における看護師の役割                    | 講義      |  |
|                   | 4                     | 2. 薬が作用するしくみ                                   |         | ・薬物受容体など   |
|                   |                       | 3. 薬物の体内動態                                     |         | ・薬物の投与経路<br>・薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）<br>・薬物動態の指標：半減期、TDMなど |
|                   |                       | 4. 薬物相互作用                                      |         | ・薬物の相互作用の種類  |
|                   |                       | 5. 薬効に影響を与える因子                                 |         | ・小児・高齢者・妊婦・遺伝子多型                                     |
|                   |                       | 6. 薬物使用の有益性と<br>危険性                            |         | ・薬物の有効量・中毒量、用量反応曲線<br>・薬物の副作用、薬剤耐性                   |
|                   |                       | 7. 薬と法律  |         | ・医薬品に関する法律と取扱い<br>・医薬品使用時の注意（処方箋、添付文書）<br>・新薬の開発     |
| 5                 | 8. 薬物に関する医療事故         | ・事例検討  | グループワーク |  |
| 6                 | 薬剤部の見学                | ・調剤の実際を見学<br>・課題学習                             | 演習・講義   |  |
| 7<br>}            | 1. 抗感染症薬              | ・感染症治療に関する基礎事項<br>・抗菌薬・抗ウイルス薬                  | 講義      |  |
|                   | 2. 抗がん薬               | ・眼治療に関する基礎事項<br>・抗がん薬各論                        |         |  |
|                   | 3. 免疫治療薬              | ・免疫抑制薬、免疫増強薬<br>・予防接種薬                         |         |  |
|                   | 4. 抗アレルギー薬<br>抗炎症薬    | ・抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬<br>・ステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬        |         |  |
|                   | 5. 末梢での神経活動に作用する薬物    | ・交感神経作動薬・副交感神経作動薬<br>・筋弛緩薬・局所麻酔薬               |         |  |
|                   | 6. 中枢神経系に作用する薬物       | ・全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬<br>・向精神薬                         |         |  |
|                   | 7. 循環器系に作用する薬物        | ・抗圧薬、利尿薬<br>・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬<br>・血液に作用する薬物 |         |  |
|                   | 8. 呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物 | ・気管支喘息治療薬<br>・消化性潰瘍治療薬<br>・性ホルモン、子宮収縮薬         |         |  |
|                   | 9. 物質代謝に作用する薬物        | ・糖尿病治療薬<br>・治療薬としてのビタミン                        |         |  |
|                   | 10. 皮膚科用薬<br>眼科用薬     | ・皮膚に使用する薬物<br>・眼科外用薬（点眼薬）                      |         | 学習課題   |
|                   | 11. 救急時に使用する薬物        | ・救急蘇生時・急変時に用いられる薬物<br>・急性中毒に対する薬物治療            |         |  |
|                   | 12. その他の薬物            | ・漢方薬   |         |  |
| ・消毒薬<br>・輸液製剤・輸血剤 |                       |  |         |  |

発展科目：看護学全般

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院

成績評価：終講時試験

|         |   |
|---------|---|
| 科目名     | 治療論－1【栄養食事療法】   |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進  |
| 履修対象    | 1年次 後期  |
| 単位      | 1単位（30時間の内16時間）   |
| 担当講師    | 非常勤講師 2名  |
| 授業概要    | 生活習慣病が大きな健康問題になっているわが国において食習慣の改善は重要な課題である。また食の情報が氾濫する中で、正しい知識を持ち何が健康によいのかを判断する能力が求められている。ここでは臨床栄養学の基礎知識を理解し、看護対象者の生活や健康状態に合った食生活の援助方法を見極め、実践できる能力を養う。また関連職種の中での看護師の役割を学ぶ。 |

## 授業計画

| 回           | 項目          | 内容  | 方法 |
|-------------|-------------|---|----|
| 1           | 食事療法の実際     | 治療食の実際の見学・試食  | 演習 |
| 2<br>3      | 臨床栄養学の基礎知識  | ①人間栄養学と看護<br>②栄養素の種類とはたらき<br>③食物の消化と栄養素の吸収・代謝<br>④エネルギー代謝<br>⑤食事と食品 | 講義 |
| 4           | 栄養ケア・マネジメント | ①栄養状態の評価・判定   | 講義 |
|             | ライフステージと栄養  | ①人生各期における健康生活と栄養  |    |
| 5<br>6<br>7 | 臨床栄養        | ①栄養補給方法<br>②疾患・症状別栄養食事療法  | 講義 |
| 8           | 健康づくりと食生活   | ①食生活の変遷と生活習慣病の予防<br>②食の安全性と表示                                       |    |

発展科目： 疾患に対応した適切な栄養補給法の実践は治療の基礎となり、看護学の基礎となる。

テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院  
系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院

成績評価： 終講時試験・レポート・参加度を加味する。

|         |                      |
|---------|----------------------|
| 科目名     | 治療論 - 1【手術療法と麻酔】     |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 |
| 履修対象    | 1年 後期                |
| 単位      | 1単位 (30時間の内14時間)     |
| 担当講師    | 非常勤講師 3名             |
| 授業概要    |                      |

手術を受ける患者は、不安・恐怖・緊張・葛藤などを感じながら、麻酔、創傷、出血、疼痛、低体温など多くの刺激を受ける。麻酔は本来これらの刺激をコントロールするために用いられるものであるが、その作用と副作用によって様々な生体反応を示す。ここでは、手術療法を受ける患者の基礎的知識として、麻酔、手術侵襲と生体の反応、輸液療法、輸血療法、疼痛管理について学ぶ。

## 授業計画

| 回           | 項目                  | 内容   | 方法 |
|-------------|---------------------|--|----|
| 1<br>3<br>4 | 1. 麻酔法              | 麻酔の種類<br>術前管理<br>術中管理<br>術後管理<br>全身麻酔<br>局所麻酔<br>脊髄くも膜下麻酔<br>硬膜外麻酔 | 講義 |
|             | 2. 呼吸管理             | 酸素療法<br>人工換気   |    |
|             | 3. 体液・栄養管理          | 体液管理と輸液<br>栄養管理  |    |
|             | 4. 輸血療法             | 輸血実施手順と過誤防止策<br>輸血医療の危険性   |    |
|             | 5. 疼痛管理             | 術後疼痛の基礎<br>術後疼痛が生体に及ぼす影響とその関係<br>術後鎮痛法の適応と利点・欠点<br>新しい術後疼痛管理法      |    |
|             | 6. 救急医療             | ショック<br>救急処置   |    |
| 5           | 7. 緩和医療             | 緩和医療と緩和ケア  |    |
| 6<br>7      | 手術療法を必要とする<br>患者の看護 | 術中看護<br>外科患者のアセスメント  | 講義 |

発展科目： 手術療法を受ける患者への看護の基礎的知識および看護学の基礎となる

テキスト： 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

成績評価： 終講時試験・レポート・参加度を加味します

科目名 治療論 -2【主な検査】  
 授業科目の区分 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進  
 履修対象 2年次 後期  
 単位 1単位 30時間  
 担当講師 非常勤講師 4名  
 授業概要 臨床検査・X線診断・内視鏡検査のプロセスを知り、看護師の役割を学ぶ  
 授業計画

| 回  | 項目                 | 内容  | 方法 |
|----|--------------------|---|----|
| 1  | 臨床検査とその役割          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代科学と医療</li> <li>・診療における臨床検査の役割</li> <li>・臨床検査の種類</li> <li>・臨床検査の評価</li> <li>・臨床検査の戦略と技術の動向</li> </ul>  | 講義 |
|    | 臨床検査の流れ            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査の流れ</li> <li>・臨床検査の準備</li> <li>・患者に対する説明</li> <li>・検体の採取法、保存・移送法</li> <li>・検査による危険とその防止策</li> </ul> | 講義 |
| 2  | 臨床検査各論             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般検査(尿・便・体液・髄液・関節液・消化液)</li> </ul>  | 講義 |
| 3  |                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・血液検査、化学検査、免疫血清検査、病理検査</li> <li>生理機能検査</li> </ul>  |    |
| 4  | 臨床検査の実際            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体検査、検体検査、形態検査の実際</li> </ul>  | 演習 |
| 5  |                    |   |    |
| 6  | 放射線医学の成り立ち<br>X線診断 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線の発見</li> <li>・診断に利用されるX線の性質</li> <li>・X線検査の種類</li> <li>・各臓器のX線検査</li> </ul>                          | 講義 |
| 7  | 血管造影               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・血管造影の成り立ち</li> </ul>  |    |
|    | IVR                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各臓器の血管造影</li> <li>・血管系におけるIVR</li> <li>・血管以外の臓器におけるIVR</li> </ul>                                       |    |
|    | MRI                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・MRIの特徴</li> <li>・各臓器のMRI</li> </ul>   |    |
| 8  | 核医学診断              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・核医学検査の放射線物理</li> <li>・核医学検査と体外測定法</li> <li>・各臓器の核医学検査</li> </ul>  |    |
|    | 放射線治療              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体に対する放射線の影響</li> <li>・放射線治療総論</li> <li>・放射線治療の方法</li> </ul>  |    |
| 9  | 放射線防護と健康管理         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線障害</li> <li>・放射線防護の基本と健康管理</li> <li>・X線診断時の放射線防護</li> </ul>  |    |
| 10 | 放射線診断の実際           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般検査、造影、CT、MRI、核医学検査</li> </ul>   | 演習 |
| 11 | 放射線治療の実際           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リニアック</li> </ul>  |    |
| 12 | 内視鏡検査              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・胃カメラ、大腸ファイバー</li> </ul>   | 講義 |
| 13 |                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオプシー</li> </ul>   |    |
| 14 | 内視鏡的治療             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡的硬化療法</li> </ul>   |    |
| 15 | 内視鏡検査・治療の<br>実際    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡室</li> </ul>   | 演習 |

発展科目: 検査・治療を受ける患者の基礎的知識として、看護学の基礎となる  
 テキスト: 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院  
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院  
 資料  
 成績評価: 演習参加度  
 終講時試験

|         |  |
|---------|--|
| 科目名     | 災害医療論  |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度   |
| 履修対象    | 1年次前期・後期   |
| 単位      | 1単位 30時間   |
| 担当講師    | 藤田美佐子(4時間)・救急法指導員(20時間)・トレーニングセンター(6時間)  |
| 授業概要    | 災害および、災害医療に関する基礎的知識を理解する。<br>災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解する。<br>防災意識を高める。<br>災害医療活動に参加できる基礎的能力を習得する。 |

## 授業計画

| 回              | 項目   | 内容  | 方法   |
|----------------|--|---|--|
| 1              | 1. 災害看護学を学ぶ意義<br><br>2. 災害看護の歩み<br><br>3. 災害医療の基礎知識  | 1) 災害被害の国際化<br>2) 近年の国内外の災害<br>3) 災害看護の役割<br>4) 人道支援の原則<br><br>1) 災害看護の始まり<br>2) 看護の役割の拡大<br><br>1) 災害の定義<br>2) 災害の種類と健康障害<br>災害後のストレス・災害関連死<br>被曝が身体に及ぼす影響   | 講義<br>パワーポイント<br>資料配布                                      |
| 2              | 1. 災害医療の特徴<br><br>2. 災害と情報<br><br>3. 災害対応にかかわる<br>職種・組織間連携<br><br>4. 災害と法律<br><br>5. 国内の救援活動の<br>現状と課題 | 1) 災害医療と救急医療の違い<br>2) 災害医療における体系的アプローチ<br>3) 災害サイクルと医療体制<br><br>1) 災害情報の種類<br>2) 災害救護活動のための情報収集<br><br>1) 非医療従事者との連携<br>2) 国・地方公共団体・赤十字等との連携<br>3) 防災ボランティアとの連携<br><br>1) 災害救助法・災害対策基本法<br>2) 災害時の法的な課題<br><br>1) 阪神淡路大震災<br>2) 東日本大震災<br>3) その他の災害 |  |
| 3<br>～<br>12   | 6. 赤十字救急法  | 災害時に必要な救護技術①<br>1) 基礎講習<br>一次救命処置(心肺蘇生法/AED)<br>2) 救急員養成講習<br>きずの手当て    骨折の手当て<br>搬送            救護  | 赤十字救急法の指導<br>要綱に準じて実施                                      |
| 13<br>14<br>15 | 7. 災害救護実習  | 1) 災害時に必要な救護技術②<br>基礎行動<br>担架、無線機の取り扱い<br>テント設営・自家発電機の取り扱い<br>2) 災害時の被災者の心理<br>傷病者体験から学ぶ  | トレーニングセンター<br>セカンドクラスとの<br>合同訓練<br>課題レポート<br>トレーニングセンターの学び |

発展科目：災害看護論、災害救護活動など

テキスト：災害医療については適宜資料配布

赤十字救急法教本(基礎講習教本・救急法講習教本)

成績評価：赤十字救急法基礎講習・救急員講習検定

トレーニングセンター参加状況

課題レポート

|         |  |
|---------|--|
| 科目名     | 災害医療論  |
| 授業科目の区分 | 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度   |
| 履修対象    | 1年次前期・後期   |
| 単位      | 1単位 30時間   |
| 担当講師    | 専任教師・救急法指導員・他  |
| 授業概要    | 災害および、災害医療に関する基礎的知識を理解する。<br>災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解する。<br>防災意識を高める。<br>災害医療活動に参加できる基礎的能力を習得する。 |

## 授業計画

| 回             | 項目                       | 内容  | 方法   |
|---------------|--------------------------|---|--|
| 1<br>～<br>3   | 1. 災害看護学を学ぶ意義            | 1) 災害被害の国際化<br>2) 近年の国内外の災害<br>3) 災害看護の役割<br>4) 人道支援の原則   | 講義<br>パワーポイント<br>資料配布  |
|               | 2. 災害看護の歩み               | 1) 災害看護の始まり<br>2) 看護の役割の拡大                                |  |
|               | 3. 災害医療の基礎知識             | 1) 災害の定義<br>2) 災害の種類と健康障害<br>災害後のストレス・災害関連死               |  |
|               | 4. 災害医療の特徴               | 1) 災害医療と救急医療の違い<br>2) 災害医療における体系的アプローチ<br>3) 災害サイクルと医療体制  |  |
|               | 5. 災害と情報                 | 1) 災害情報の種類<br>2) 災害救護活動のための情報収集                           |  |
|               | 6. 災害対応にかかわる<br>職種・組織間連携 | 1) 非医療従事者との連携<br>2) 国・地方公共団体・赤十字等との連携<br>3) 防災ボランティアとの連携  |  |
|               | 7. 災害と法律                 | 1) 災害救助法・災害対策基本法<br>2) 災害時の法的な課題                          |  |
|               | 8. 国内の救援活動の<br>現状と課題     | 1) 東日本大震災<br>2) その他の災害                                    |  |
| 4<br>～<br>11  | 9. 災害救護実習                | 1) 災害時の被災者の心理<br>トラウマメイク<br>傷病者体験から学ぶ                     | トレーニングセンター<br>セカンドクラスとの<br>合同訓練<br><br>課題レポート<br>トレーニングセンターの学び |
|               |                          | 2) 災害時に必要な救護技術<br>基礎行動<br>担架、無線機の取り扱い<br>テント設営・自家発電機の取り扱い |  |
| 12<br>～<br>15 | 10. 赤十字救急法               | 災害時に必要な救護技術<br>1) 基礎講習<br>一次救命処置(心肺蘇生法/AED)               | 赤十字救急法の指導要<br>綱に準じて実施<br><br>特別講義枠で実施予定                        |
|               |                          | 2) 救急員養成講習<br>きずの手当て 骨折の手当て<br>搬送 救護                      |  |

発展科目：災害看護論、災害救護活動など  
 テキスト：災害医療については適宜資料配布  
 ＊赤十字救急法実施時は教本あり  
 成績評価：赤十字救急法検定を加味する  
 トレーニングセンター参加状況  
 課題レポート

科目 医療概論

授業科目の区分 専門基礎分野

履修対象 1年次 前期

単位 2単位 30時間

担当講師 非常勤講師 1名 専任教師 1名

授業概要 医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題を抱かえているかを理解し、深く考える。人間の健康を守る営みがどのように変遷してきたかについて、人々の健康観および家族の役割と職業として専門分化した職種の役割や協働を通し、医療の動向と医療看護提供システムについて学ぶ。患者からみた「医」の「論理」と「倫理」「管理」について考える。

授業計画

| 回                 | 項目                              | 内容  | 方法       |
|-------------------|---------------------------------|---|----------|
| 1<br>2            | 第1章<br>生きることと死ぬこと               | 1. 生命を尊ぶ心<br>2. 健やかに生きる<br>3. おいてこそ人生<br>4. 穏やかに死ぬこと  | 講義<br>演習 |
| 3<br>4<br>5       | 第3章<br>保健・医療・介護<br>切れ目ないサポートの実現 | 1. 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化<br>2. 社会保障制度<br>3. 公衆衛生と保健<br>4. わが国の医療システム<br>5. 救急医療・集中医療<br>6. がん治療<br>7. 周産期医療<br>8. 放射線医療<br>9. チーム医療<br>10. リハビリテーション<br>11. 介護 | 講義<br>演習 |
| 6                 | 看護史について                         | 1. 看護史の意義<br>2. 原始看護<br>3. 古代文明国における看護<br>4. 西洋医学の源流<br>5. カトリックによる宗教的看護<br>6. わが国における仏教看護<br>7. 近世日本の医療と看護<br>8. 近代看護の確立                                     | 講義       |
| 7<br>8<br>9<br>10 | 看護史に興味・関心を持ち、理解を深めよう            | テーマを決め、グループワークを行う<br><br>発表、意見交換  | 演習       |
| 11                | 第2章<br>医学と医療                    | 1. 温故知新 医学の歴史に学ぶ<br>2. 臨床疫学とEBM   | 講義       |
| 12                | 第4章<br>医療と社会                    | 1. 医の倫理<br>・生命倫理とは<br>・患者の権利<br>・研究倫理   | 講義       |
| 13                | 第4章<br>医療と社会                    | 1. 医療安全<br>・医療事故と医療過誤<br>・医療安全対策のはじまり<br>・医療過誤の原因と対策<br>・医療事故調査制度<br>2. 医薬品<br>・医薬品の分類<br>・医薬分業<br>・後発医薬品<br>・ポリファーマシー<br>・かぜに対する抗菌薬使用の問題<br>・医薬品の有害事象<br>・薬害 | 講義       |

|    |                   |  |    |
|----|-------------------|--|----|
| 14 | 第4章<br>医療と社会      | 1. 最先端医療<br>・臓器移植医療<br>・生殖補助医療<br>・再生医療<br>・ゲノム医療<br>2. 医療情報<br>・医療情報と個人情報保護<br>・医療ビッグデータ<br>・人工知能(AI)による医療支援  | 講義 |
| 15 | 第5章<br>医療経済学と医療政策 | 1. 経済学を用いて医療を読み解く<br>・医療サービスの特殊性<br>・公的医療保険はなぜ必要か<br>・医療の質評価と情報公開<br>・医療サービスの規制<br>・医療職の不足<br>2. 転換を迫られる医療政策<br>・国民医療費<br>・これまでの医療費抑制策<br>・急性期医療の集約化<br>・医療サービスの費用効果分析<br>・まとめ 医療者が持つべきコスト意識 | 講義 |

発展科目： 看護学全般  
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[1] 総合医療論 医学書院  
系統看護学講座 別巻 看護史 医学書院  
成績評価： レポート、参加度等  
終講時試験

2021. 3改訂

- 科目名： 公衆衛生学
- 授業科目の区分： 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度
- 履修対象： 3年次 前期
- 単 位： 1単位 15時間
- 担当講師： 非常勤講師(9) 姫路市保健師(2) 姫路市保健所(4)
- 授業概要： 1. 健康の概念を理解した上で、種々の公衆衛生分野の現状と課題を把握する
2. 医療に関連する社会保障制度(医療保障・介護保険制度など)を理解し、臨床現場でも活用できるようにする
3. 公衆衛生分野における保健所の役割について、理解する

## 授業計画

| 回<br>(時間)    | 項目            | 内容   | 方法       |
|--------------|---------------|--|----------|
| 1<br>(1~2)   | 公衆衛生の理念       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公衆衛生を学ぶにあたって</li> <li>・ 公衆衛生の活動対象</li> <li>・ 公衆衛生のしくみ</li> </ul>                            | 講義       |
| 2<br>(3~4)   | 健康と環境         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康管理と環境要因</li> <li>・ 集団の健康をとらえるための手法</li> </ul>   |          |
| 3<br>(5~6)   | 公衆衛生の技術と実践(Ⅰ) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域保健</li> <li>・ 母子保健</li> <li>・ 成人・老人保健</li> <li>・ 精神保健・歯科保健</li> <li>・ 難病と感染症対策</li> </ul> |          |
| 4<br>(7~9)   | 公衆衛生の技術と実践(Ⅱ) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校と健康</li> <li>・ 職場と健康</li> <li>・ 災害保健と健康危機管理</li> </ul>                                    |          |
| 5<br>(10~13) | 保健所の公衆衛生活動    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健所の役割と業務内容</li> <li>食品衛生、健康増進・疾病予防など</li> <li>母子保健活動、精神障害者支援など</li> </ul>                  | 保健所訪問    |
| 6<br>(14~15) | 保健師の活動        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健師の役割と業務内容</li> </ul>  | 保健師による講義 |

発展科目：看護学全般

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院  
厚生労働統計協会：厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2019/2020(1年次購入)

成績評価：課題；ゼミナールの解答・レポート他  
終講時試験  
授業態度・参加度

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 科目名     | 社会保障論              |
| 授業科目の区分 | 専門基礎科目 健康支援と社会保障制度 |
| 履修対象    | 3年 前期              |
| 単位      | 2単位 30時間           |
| 担当講師    | 非常勤講師 1名           |
| 授業概要    |                    |

看護職は、人間の命に直接かかわる仕事をします。社会の制度、とりわけ日本国憲法に規定する社会保障制度について理解を深めることは、主体性を持って責任のある仕事をするのに必要不可欠です。さまざまな医療に関する制度を根底で支えているのは法律です。その理解なくして国家試験受験資格は得られません。

法律は人間と同様に生き物です。概念的な理解にとどまらず、より科学的な視点から、日進月歩の医療の実態と乖離しないように、また社会制度の変遷に注視しつつ、他の専門基礎科目や専門科目との有機的な理解を深めることが肝要です。日常生活の中で起こる社会現象をしっかりと捉え、単に知識や技術の習得だけでなく、現象を柔軟に捉える心が醸成されるよう講義します。

社会保障制度を理解するために、法と社会の関係、法の内容、看護職の職務遂行に必要な法令、そして医療関連法規、医療過誤問題について講義します。保健師助産師看護師法の徹底理解、社会資源の活用に関する法規の理解などは、国家試験対策に直結するものです。また、看護事故をいかにすれば防げるかを、看護行為の基盤となる看護倫理観の醸成に重点を置いて講義します。さらに、当該分野の理解度確認として、国家試験問題の演習をします。

#### 授業計画

| 回              | 項目 | 内容   | 方法 |
|----------------|----|--|----|
| 1<br>2         |    | 1. 法と社会の関係や法の内容を看護に関わる社会問題を通して説明します。また、生命倫理にかかわる法的な医療問題を考察します。                             | 講義 |
| 3<br>4         |    | 2. 医療の現場と、行政機関がどのように関係しているかを、保健・医療・福祉の実態を通して考察します。   | 講義 |
| 5<br>6<br>7    |    | 3. 医療関連法規の沿革及び分類を理解することで、今後実施される法改正に柔軟に対応できる社会資源活用能力の獲得を目指します。                             | 講義 |
| 8<br>9<br>10   |    | 4. 基本法である保健師助産師看護師法については、度々の改正経過や厚労省の通達を踏まえて逐条解釈、法社会学的解釈をします。                              | 講義 |
| 11<br>12<br>13 |    | 5. 関連法規について 保健・医療・福祉が様々に交錯する分野を縦割りに理解するだけでなく、横の繋がりを実務的に説明します。                              | 講義 |
| 14<br>15       |    | 6. 医療過誤 様々な医療事故・医療過誤事例を検討し、看護職に問われる可能性のある法的責任としての民事責任、刑事責任、行政責任、及び倫理観の問題としての道義的責任について考えます。 | 講義 |

※具体的な授業計画は、講義計画表に記載します。

発展科目： NIEを取り入れ、医療に関連する問題を、広く社会現象の中に求めてゆきます。強いて言えば、看護法社会学を実感していただきます。

テキスト： 前島良弘 著「新版 看護を学ぶための法と社会保障制度」(ふくろう出版) 2021年3月出

成績評価： 終講時試験（空所補充、正誤訂正、多肢択一問題）、単元別演習、参加度を総合評価します。

コメント： 毎回重要なプリントを配布します。しっかりファイルしてください。また、遅刻、欠席に関してはレポートの提出を求めます。